

# 「えほんとおそぼ！」報告書

【第1回】令和4年11月13日(日)

【第2回】令和4年12月18日(日)



## 1. 目的

絵本専門士による「アニメーション」「ブックトーク」をはじめとする、読書・読み聞かせの手法を用いたプログラムを行い、普段の読書体験から一歩進んだ豊かな絵本と触れ合う場を提供するとともに、家庭での読み聞かせを通じたコミュニケーション促進を図る。

## 2. 事業の概要

- (1)対象 年長児および小学1年生とその家族（兄弟姉妹の参加も可）  
 (2)参加者 【第1回】4家族（大人4名、小学1年生3名、年長児2名）  
 【第2回】1家族（大人1名、小学3年生1名、年長児1名）

### (3)日程

	9:30	10:00	10:30	10:50	12:00	13:00	14:30	15:00
11月13日	受付	はじめの会	絵本を読む前の準備体操 (アイスブレイク)	みんなで絵本の世界へ行こう (ブックトーク&アニメーション)	お昼ごはん	絵本の世界ウォークラリー	おわりの会	
12月18日	受付	はじめの会	絵本を読む前の準備体操 (アイスブレイク)	絵本の世界を遊んじゃおう(アニメーション)	お昼ごはん	私のおすすめの本はこれだ！(ビブリオトーク)&本のポット&スタンドをつくろう(工作)	おわりの会	

- (4)講師 絵本専門士 勝又 弓子 氏

## 3. 事業の内容

### 【第1回】

#### (1) みんなで絵本の世界へ行こう（ブックトーク&アニメーション）

ブックトークのプログラムでは、「冒険」をテーマにした7冊の絵本を紹介した。また、アニメーションのプログラムでは『はじめてのおつかい』（作：筒井頼子、福音館書店）を用いて、絵本の読み聞かせを行った後に作中に登場する品物の絵を見せて、どの場面に登場したかを参加者に問いかけるクイズを交えた読書方法を体験した。

#### (2) 絵本の世界ウォークラリー

ブックトーク&アニメーションで題材にした「冒険」のテーマを引き継ぎ、オリジナルのストーリーを基にしたウォークラリーを行った。活動中、参加者同士が協力してチェックポイントを発見する場面が見られ、自然と家族間での交流が生まれた。



## 【第2回】

### (1) 絵本の世界を遊んじゃおう (アニメーション)

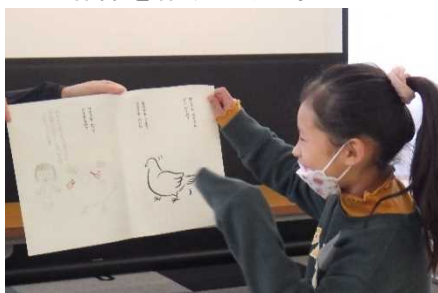
3冊の絵本を読み聞かせをした後に、絵本の登場人物になりきって動いたり、絵本の続きを参加者自ら考えたりする活動を行った。参加者が絵本を能動的に楽しみながら読む様子が見られた。

### (2) 私のおすすめの本はこれだ! (ビブリオトーク)

参加者には事前におすすめの本を用意してもらい、5分程度で絵本の紹介を行った。あらすじやおすすめポイント、好きな場面等を発表し、その後に聞き手からの質問時間を設けた。

### (3) 本のポップとスタンドを作ろう

ビブリオトークで題材にした絵本について、交流の家の「えほんのへや『ふらら』」を訪れた人に紹介するポップとそれを掲示するスタンドを製作した。参加者は自然物等を用いて思い思いの作品を作り上げた。



## 4. 参加者の声

- ・絵本1冊でこんなに色々な遊びができると知ることができました。
- ・知らない絵本の紹介や絵本の中に出てきた物でのクイズが楽しかったです。
- ・ふだん子供が選ばない本もあり、楽しみ方がとても参考になりました。
- ・これからは絵本の絵についても話したりなどもしたいと思いました。
- ・なかなか家でゆっくりと絵本に触れる機会を持つのはむずかしいのですが、これを機会にもう少し多く読み聞かせ等していきたいと思いました。
- ・少人数だったので他の家庭とも上手に交流できました。
- ・絵本に対する今までにない視点を教えていただいたので、絵本を読むのが楽しみになりました。
- ・1日メディアに頼ることなく、親子で楽しい時間が過ごせて良かったです。

## 5. アンケート結果の考察

ただ絵本を読み聞かせるだけでなく、アニメーションやブックトークなどの読書方法を用いることで、参加者がそれまで知らなかった絵本の読み方・楽しみ方を体験する機会となった。特に、絵本を読み聞かせた後に作中に出てきた品物や人物を当てるクイズを交えたワークは、親子ともに好評だった。特別な道具や知識を必要としないため、家庭でも実践しようとする意欲が伺えた。

## 6. 成果・課題

- 絵本専門士を講師として招き、アニメーションやブックトークなどの一般的にはあまり知られていない読書方法を実践することで、新しい読書体験を経て読書・読み聞かせへの更なる興味関心を引き出す機会を提供することができた。アンケートからは、家庭でも絵本の絵に注目しながら読み聞かせをしたい等の感想が見られ、参加者にとって新たな発見がある有意義な時間となったと思われる。
- 本事業を実施することで、絵本専門士の選書や、事業中の参加者の声（例：「なぜなぜの絵本が読みたい」）を基に、当施設「えほんのへや『ふらら』」に置く絵本のジャンルや対象年齢をバラエティー豊かにすることができた。所有する絵本が豊富になったことで、今後の研修支援や集客において有効活用できる。
- ウォークラリーやクラフトといった自然体験を交えた活動を取り入れたことで、親子間や家族間での交流を図りつつ、1日の活動にメリハリをつけることができた。「絵本＝読み聞かせ」というイメージにとらわれず、施設の強みである「自然」「体験」と組み合わせ、交流の家ならではの複合的な読書体験を提案することができた。
- 本事業の特徴として、絵本のより深い楽しみ方を体験する実験的な事業であったため、定員を少人数に限定して企画し、チラシ・ポスターを広く配布することで普及啓発を行った。参加者数に関しては両日とも定員割れとなり、課題を残す結果となった。今後の展望として、対象年齢を広げることや、施設開放事業をはじめとするイベントと連携して絵本事業を実施する等、より多くの参加者を獲得し、読書体験の場を提供したい。